

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

赤ちゃんに母親がいなかつたり子牛に世話をする者がおらなかつたら、共に生きてゆくことは出来ない。私達の周囲は常に危険がイッパイである。人々が神仏を信じ、これを依りどころにせなかつたら、正しい心で安らかに暮くらせるものではない。我欲を捨て、正しい教えに従うことによつて、誤りのない人生をおくる事ができるのである。

愛媛県川之江市金田町

四国第六十五番

三 角 寺

四国霊場第六十五番 三角寺

愛媛県川之江市
金田町三角寺

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

四国へんろはすばらしい旅だ

へんろの旅に出る姿は白装束だ。だから死んだつもりでお大師さまの歩んだ道をこの足で一步一步と歩みつゝ過去の罪過を「くい」改めるための修業で罪過を滅すれば心淨らかになる。これが、人生の絶対の本質だ。

旅行は色々な目的があって旅をするが、へんろの旅は知つて造つた罪や知らずに造つた罪業を少しでも消滅して歩く旅である。

各靈場で宿泊をされると必ず住職の法話がある。それら総合すれば自ずから道は開ける。へんろの旅を終えて古里に帰えれば、さっと白装束は脱ぐだらう。即ち、生れ変って棺桶から這出て来たことになる。再度産声を揚げて一層清らかに生れ変った気持で人生の再出発が出来るのである。心の健康と幸せを求める者は四国へのんろの旅で修業をするべきだ。

新しい希望えの人生を甦^{よみが}え心の旅です。

合掌

四国高野 霊場第六十六番雲辺寺七十八代
住職 利昭

四国靈場第六十六番 雲辺寺

徳島県三好郡
池田町白地

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

手や足のよごれはいつも洗へども
心のあかを洗ふ人なし

この歌を読んでいて柴山全慶師の言葉がおもい出されます。師は「花は黙って咲き黙って散って行く、そうしてふたたび枝に帰らない。けれどもその一時一処に、この世のすべてを托している。」

一期一会の心をもってのおへんろの旅。そうして深く自分的心をみつめてのおへんろ。織悔し乍ら心を洗って行く私でありたいと思うのです。

一時一処にすべてを托しある祈りをしているのであれば唱つる祈りにそこに生きる私の存在を知りたいのです。そして又「人の田に追うてやりたし村雀」と「人の田も追うてやりたし村雀」この二つの句でにともに置きかへる丈で心のありかたが如何に違うかがお解りの事と思います。

現在の吾々はおもいやりの心を忘れているのではないでしようか。物の豊かさに大切な心を失っているのではないでしようか。

一時一処にすべてを托し温かい心をもって社会に尽す人間性が欲しい。
考えてみましよう。そして生きる事（すばらしく老いる事の尊さ難しさ）を。

香川県三豊郡
山本町辻小松尾

四国霊場第六十七番 大興寺

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

涅槃像

釈迦八相（下天、入胎、住胎、出生、出家、成道、転法輪、

入涅槃）の一つ

成道後四十五年間の説法の後、クシナガラ郊外で病を得た釈

尊は、阿難に命じて、沙羅双樹の下に牀座を設け、頭を北

に向け、右脇を下にし、両足を揃え重ねて、西方に向かつ

て、身を横たえ、寂然として、大涅槃に入られた時の姿です。

四国霊場第六十八番 神恵院 香川県観音寺市
八幡町甲3871

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

当寺と大師との縁

仏滅後、一千七百五十六年、大同正年一月二十六日、大師御年三十四才、大師當所、有明の浜に船を寄せ当山に詣でたまふ。玉泉坊世覚、行智坊貴後等、出迎へて、亡師の遺命を告ぐ。

大師云く、我入唐留学の勅宣を奉つて、志願を満して今帰朝す。入京上表の後、此に還り来んと。

大師再来の時、土地の漁夫のもうすに、海に漂流する異木あり、その木電光を放つ幹まわり丈余長さ十丈をこす電光があまり強きによつて、不漁の日々が続く他方に流棄するも又還来すること數回、熟視するに和國所産の木に非ず、仏像これを用いて作らば可ならん。大師命じてこれを採らしむ。この木を以つて丈六の薬師如来及び、十二神将等の像を作りたまふ。又聖観音の秘像及び四天王等仏像を作りて、中金堂を造営せしむ。これより神宮寺をあらため觀音寺と号す。

四国靈場第六十九番 觀音寺 香川県觀音寺市
八幡町甲3875

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

四国巡拝の皆々さま、お参り大変ご苦労さまです。最近は何かとさわがしい世相ではあります、この四国遍路を機に、日頃忘れがちな信仰心を、再び自らの心によびもどそうではありませんか。

「口に信修を唱うれども 心すなわち嫌退すれば 頭（はじめ）有つて尾（おわり）なし」

これは「性靈集」の中にある、お大師さまのことばです。このとおり、行動のともなわない生活、口先ばかりの人生では、まことの信修は首尾一貫せず、信仰の心にそむくことになるのではないでしょうか。この世は全てそれぞれが、縁を織りなして存在しています。その本来のすがたを知ることが、お大師さまの教えの源（みなもと）なのです。

合掌

四国靈場第七十番 本山寺

香川県三豊郡
豊中町本山甲

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

眞の言葉

印度に発芽し中国にその葉脉を育てた密教は既に枯渴したが、只、日本にのみ昌えていたその起因は、それを組織体系して、現世に生息するものに生かす力を培養させて、身読体験による教法を樹立した宗祖弘法大師の密教であるからである。密教の説く即身成仏の教綱、三密瑜伽の身験による肉身のまゝの成仏、変り移る大宇宙の現象と肉身即ち、小宇宙と而二不二を説く六四大曼の真理の世界観、その真理を認識、身読、体得することによつて、密教最高の指標である即身成仏の可能を説いて尽きない。

成仏とは何か、それは各々が有つ性格の向上であり至高のものへの完成である。人格の完成、即ち成仏の棲徑と方法は、四ツの諦らかな徑を踏んでゆく事である。発心、修行、菩提、涅槃の是れである。

四国靈場第七十一番 弥谷寺

香川県三豊郡
三野町字大見

<四国八十八ヶ所靈場会發行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

お大師さまは「般若心経秘鍵」という書をお書きになつておられます。その冒頭に「夫れ仏法遙かに非ず心中にして即ち近し、真如外に非ず身を棄てて何んか求めん」と申されております。仏の教へは遙か彼方の遠方にあるのではなく、私達お互いの心の中にあるのです。よろこびやかなしみを乗り越えた本当のしあわせは外を探しても見当りません。自分自身の身体の中、自分自身の心の中に居られるのです。

仏とて淨土にあると思うなよ 五臓六腑の中にまします
極楽は西にもあれば東にも 来た(北)道探せ皆身(南)
にあり

四国靈場第七十二番 曼荼羅寺

香川県善通寺市
吉原町 1380

<四国八十八ヶ所靈場会発行>